

観音寺にお遍路さん1000人

沼南の泉地区の人たちに背負われたお大師さんの厨子が到着した



五月の連休の始まった三日、観音寺には同行二人と書かれた袋を肩に掛け、南無大師遍照金剛の白衣を着た千人近いお遍路さんが集まった。正午前には法螺貝(ほらがい)を吹き鳴らし、お大師様の入った厨子を背負った人を中心にした本隊が到着、大師像のある札所の前で般若心経を二回、さらに観音堂の前でも唱和。おりからボタン満開の全山は信仰の熱気に包まれた。

逆井地区の講の人たちは、朝から八百人分の昼食や飲み物を用意し、地区別に境内のあちらこちにシートを敷き、場所を作って待っていた。それがあつという間に満員となった。ときならぬにぎわいにボタン見物の一般客が入り込むすきもない。

観音寺に集合したのは南相馬送り大師、いまでは東葛・印旛大師組合という弘法大師信仰の講の人たち。手賀沼南岸の柏市・沼南町・白井町・鎌ヶ谷市・松戸市の三市二町に配置された写し札所の八十五キロを五月一日から五日の間に踏破するもので、観音寺は三日の昼食場所になっていた。ことしは沼南の泉地区が結願所(けちがしよ)で、泉地区の人たちが、八十八か所を回って五日に戻る。結願区は三十二か所あり三十年に一度は結願区となる。逆井地区が結願区になったのは明治三十六年、昭和六、三十六年、平成六年だそうだ。



札所は沼南が五十一か所もあり、柏の十六が続いている。観音寺は六十九番、観音の大悲のちから強ければ重き罪をもひきあげてたべ」というご詠歌がかかげられてる。浅間神社近くにある弁財天の祠は四十八番となっている。

逆井漫步②

大師像の前は満員盛況。いつもの静寂がうそのようだ②

(平成十二年五月)